

凡 例	
■■■■■■■	当該路線
====	事業中区間
————	完成区間
=====	未整備区間
=====	未拡幅区間



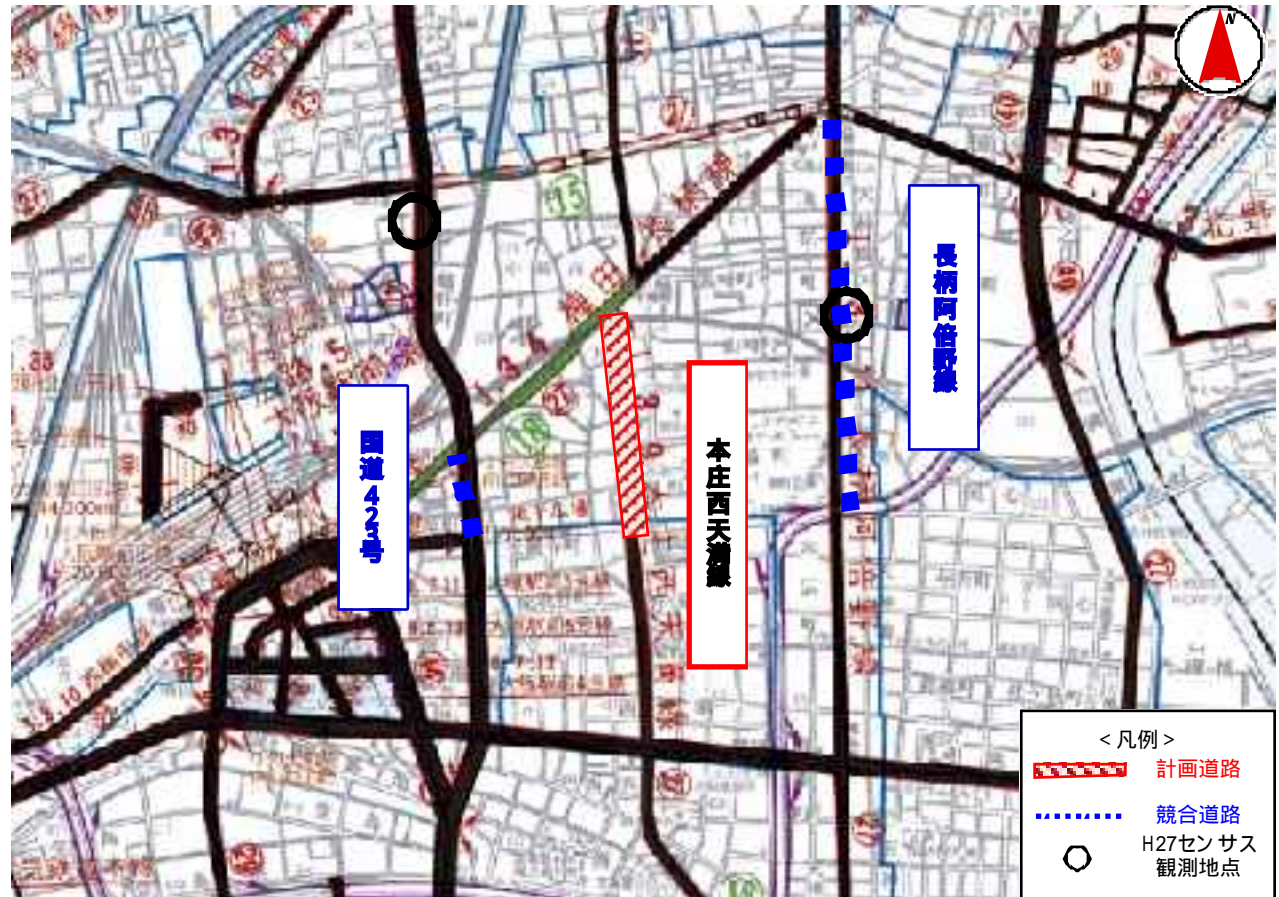
便益 (単位：億円)

走行時間短縮	18.4
走行経費減少	0.7
交通事故減少	0.2
歩行者快適性向上	4.8
合計(初年度便益)	24.2
便益総額の 現在価値	398.8

費用 (単位：億円)

事業費 (単純合計)	190.8
維持管理費 (単純合計)	0.7
投資総額の 現在価値	329.4

社会費用便益比B/C	1.21
------------	------

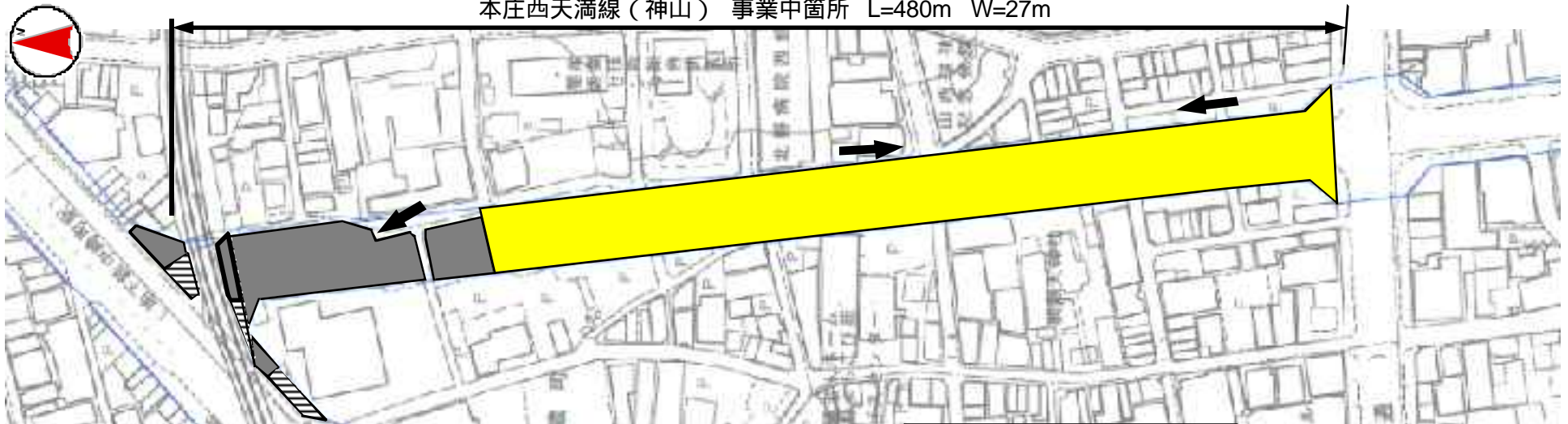


注) 便益額、費用額については単位(億円)下一桁を四捨五入しているため、合計値の端数が合致しない場合もある。

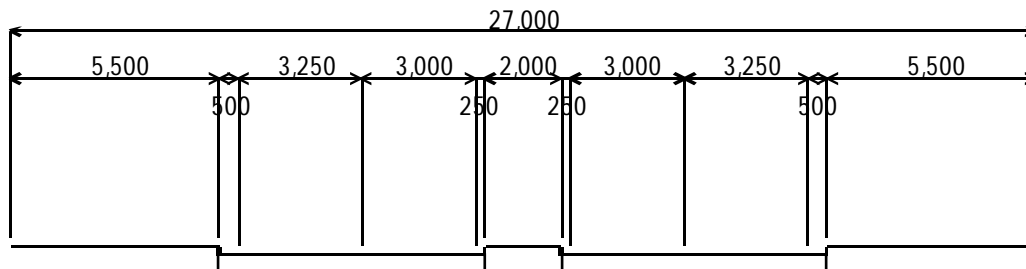
図 - 本庄西天満線と競合路線



本庄西天満線（神山） 事業中箇所 L=480m W=27m



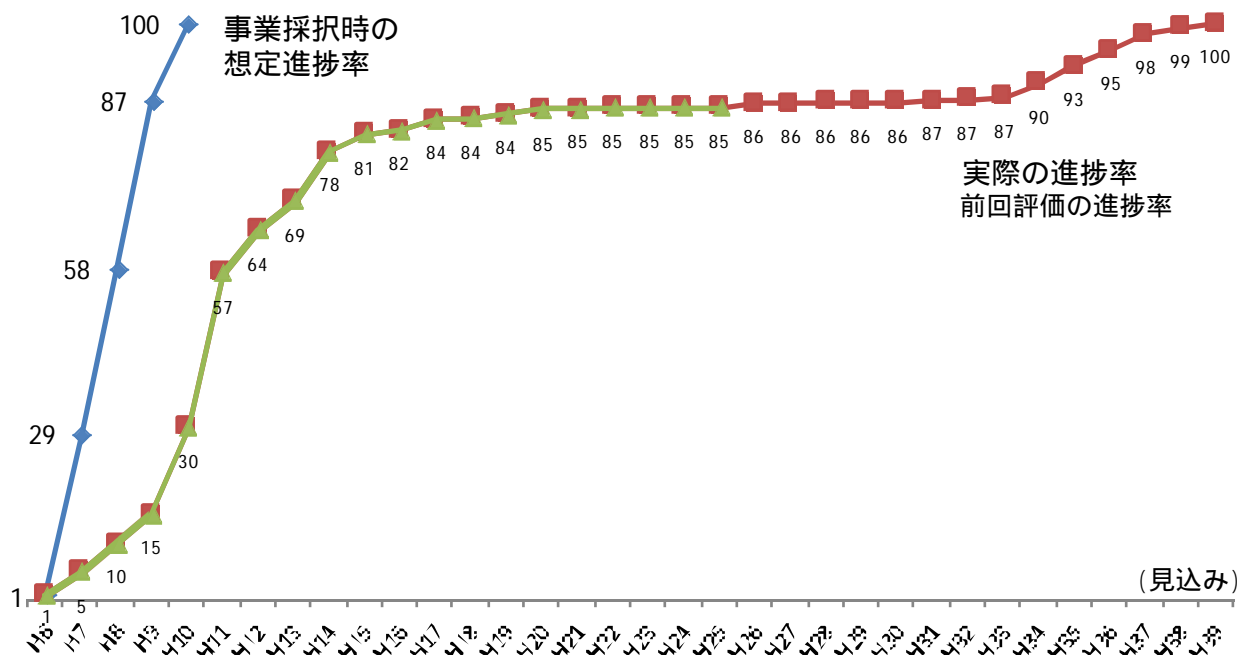
本庄西天満線（神山） 標準断面図



凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所
	前回評価時(H25)からの進捗箇所

用地取得率：95.6%（面積ベース）
 工事進捗率：71%（面積ベース）
 事業費ベース進捗率：86%

進捗率の推移(単位:%)



残事業の内容

- ・用地取得7件(479m²)
- ・道路工事(延長140m、面積3,780m²)
- ・残事業費約26億円

今後のスケジュール(見込み)

- ・平成40年度 事業完了予定

事業が遅延した原因とその状況

- ・用地取得において、近年の下落傾向にある土地価格での売買に難色を示されていることなどで、用地買収が難航し、事業が長期化していた。
- ・財政状況においても悪化しており、年次計画どおりの予算確保が難しく、当初計画に比べ進捗が遅れていた。

対応と解消の目途及びその根拠

- ・本路線は、用地取得の難航により事業が長期化していたが、用地取得のできた区間から道路整備を行い、路線の約7割の整備が完成している状況であることから、残りわずかな用地取得、整備工事を行うことで事業が完了する。また、用地取得の目途も立っており、年次計画どおりの予算が確保出来ることで、完了予定年度での完成が見込める。